



# 企業情報システムについて ～知財関連データの活用に関して～

情報システム委員会  
第2小委員会

関東部会：2018年4月17日（火）

関西部会：2018年4月19日（木）



# 2017年度 第2小委員会メンバー

役職	氏名	JIPA会員名
副委員長(小委員長)	遠山 正幸	三井造船(株)
副委員長(小委員長補佐)	落合 昌孝	富士ゼロックス(株)
副委員長(小委員長補佐)	松本 顕一郎	(株)LIXIL
委員	小島 誠	住友重機械工業(株)
委員	佐藤 洋一	住友大阪セメント(株)
委員	辻 博和	富士フイルム(株)
委員	戸石川 昇	富士通(株)
委員	西田 賢治	(株)アイピックス
委員	西山 哲法	セイコーエプソン(株)
委員	原口 正義	(株)バッファロー
委員	山田 耕太郎	(株)ブリヂストン
委員	吉田 祐馬	住友理工(株)

(計12名 敬称略、委員五十音順)





# 発表内容目次

1. 過去活動の振り返り
2. 本活動の目的・概要
3. 活動報告
4. まとめ



# 1. 過去活動の振り返り ～その1～

## 2) 調査したツールの分類-4タイプ別

### <2015年度活動>

知財関連データの活用においては、蓄積されるデータが非構造化データと構造化データに大別されることを踏まえつつ、非特許情報も含めた**分析が可能なツールを調査**し、その結果(ツールの傾向)からタイプ別に**4つに分類**した。

タイプ	特許データ	社外データ	データ取込連携	人への要求度(依存度)	利用イメージ
タイプ1	×	×	○	大	・出力データをツールに取込み各種分析を行う
タイプ2	○	×	×	中	・特許公報などプリセットデータをWebシステム経由で利用し、容易に可視化ができる
タイプ3	○	○	△	小	・予め各国の特許公報を始め様々なデータが用意されており、セマンティック検索などを利用し効率的に情報を検索して可視化ができる
タイプ4	○	×	○	小	・分類と数値データを組み合わせがある程度自動化されており、人工知能技術の利用により分析効率の向上が期待されている

### <2016年度活動>

前年度**タイプ3**(人への依存度が低いもの)**に着目**し、少なくとも特許情報を対象に分析が可能なツールを、横並びに機能・特徴・費用に至るまでをヒアリング調査し、その結果を**一覧表にまとめた**。

No	調査項目	
1	ベンダ名	
2	サービス名/ソフト名	
3	記名・ME	
4	サービス名/ソフト名	
5	サービス・ソフト区分	情報システム/サービス/ソフトウェア
6	保有データ	特許情報
7		非特許情報
8	ユーザーデータ	使用不可/インポート可能/リンク可能
9	取録国	
10	単一言語ですべてのコンテンツを検索できるか。日本語で検索できるか。	
11	結果は英語または日本語で表示できるか。(翻訳しているか)	
12	分析手法の特徴	
13	使用手順	
14	出力(何ができる)	
15	特許価値評価(客観的評価を数値や記号で出力できるか。)	
16	活用目的(7つの目的)	
17	使用の難易度	解析者のスキル(求めるスキルレベル)
18		トレーニング時間
19		検索の補助機能(セマンティック検索などスキルによらず結果を導くことができる仕組み)
20		システム管理のスキル
21	システム構成 ASP/クラウド/オンプレミス	
22	システム導入	
23	情報共有方法	
24	利用者の運用体制	
25	ベンダのサポート体制	ID契約/サイト契約
26	推奨する会社規模	
27	費用	初期費用
28		年間費用
29	試用環境	





## 2.本活動の目的・概要

### 活動テーマ

### 企業情報システムについて

～知財関連データの活用に関して～

前年度までに調査したツールによって

**「具体的に何ができるのか」**

**「課題は何か」を明確化**

することにより、

社内システム構築の一助となる情報を発信する。



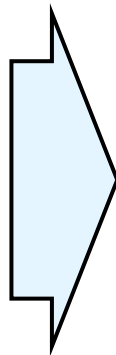
### 3.活動報告 その1 (ベンダの選定)

前年度までに調査したツールにより「**具体的に何ができるのか**」について、**仮想事例を設定してベンダにヒアリング**することとした。

前年度活動にて分類した“7つの活用目的”から**事例候補**を2つ選定し、事例紹介可能と回答のあったベンダ4社をヒアリング先の候補とした。

<7つの活用目的>

- 1.協創戦略の支援
- 2.ホワイトスペース探索**
- 3.経営に資する情報提供**
- 4.実績報奨
- 5.侵害対応
- 6.OA対応
- 7.特許の価値評価



小委員会の全メンバーの  
意見や要望から以下に決定。

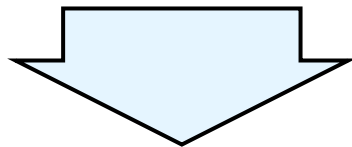
- ・ホワイトスペース探索**
- ・経営に資する情報提供**

ただし、まだ漠然としている・・・



## 3.活動報告 その2（仮想事例の設定）

- ・2つの仮想事例をベンダに伝える上で、より具体的にどういった狙いかを詳細にする必要がある。
- ・2017年4月、当小委員会がこれまで参考にしてきた**知財スキル標準**がVer.2に更新（特許庁発表）され、「**戦略**」の項目が追加されていることがわかった。これを参考にする。



- ・「戦略」の項目について、各企業がどこまで実施および重要視しているかについて、**情シ委員会内でアンケートを実施**し、ユーザの関心、取り組みの現状を把握することとした。
- ・この結果から仮想事例の具体的な内容について検討することとした。



# 3.活動報告 その3 (委員会内アンケート)

新規追加 参考) 知財スキル標準 (本体カード)

## 戦略(1. 1. 1) A. IPランドスケープ

スキル評価指標

以下について、事業部門/知的財産部門/研究開発部門と連携し、業務を行うことができる。

### ①ミッションおよび貢献すべき課題

- ・事業への貢献を行うため、以下の全社的課題について貢献した。
- ・新規事業の創出
- ・既存事業の維持/成長
- ・既存事業の縮小/撤退

### ②業務内容

以下の業務を複数回成功裡に行った。

- ・知財情報と市場情報を統合した自社分析、競合分析、市場分析
- ・企業、技術ごとの知財マップ及び市場ポジションの把握
- ・個別技術・特許の動向把握(例: 業界に大きく影響を与える先端的な技術の動向把握と動向)
- ・自社及び競合の状況、技術・知財のライフサイクルを勘案した特許、意匠、商標、ノウハウ管理
- ・製品に対する市場でのポジションの提示、及びポジションを踏まえた出願およびライセンス戦略
- ・知財デューデリジェンス
- ・潜在顧客の探索を実施し、自社の将来的な市場ポジションを提示する。

### ③知識

②業務内容を実行するため、以下の知識を有している。

- ・ビジネス(経営学の基礎理論等を含む)とそのトレンドに関する知識
- ・オープン&クローズ戦略
- ・市場の視点からみた技術のトレンドに関する知識(IoT, AI, 革新的製造技術・手法等)

### ④能力

②業務内容を実行するため、以下の能力を有している。

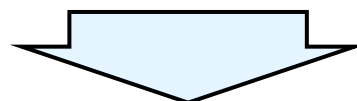
- ・自社の業界および関連する様々な業界の企業動向、技術動向を把握する能力
- ・競合等の特許出願動向や、特定技術からビジネス上のインパクトを把握する能力
- ・複数の技術・アイデアをパッケージ化して自社の将来戦略と整合させた上で提案する能力
- ・業務に有用な情報システムを適切に選択し活用することができる能力

### ⑤経験

- ・新規事業を担当した経験
- ・M&Aに携わった経験
- ・経営戦略部門での経験

知財人材育成のため、必要とされる個人の知財に関する実務能力を明確化・体系化した指標

- ・ミッションおよび貢献すべき課題
- ・**業務内容**
- ・知識
- ・能力
- ・経験



新たに追加された「戦略」項目

- ・IPランドスケープ
- ・知財ポートフォリオマネジメント
- ・オープン&クローズ戦略
- ・組織デザイン





# 3.活動報告 その3（委員会内アンケート）

アンケートシート		情報システム委員会外
設問（1） 貴社についてお答え下さい。		
I. 回答者氏名	<input type="text"/>	
II. 所属会社名	<input type="text"/>	
III. 国内年間出願件数規模	<input type="text"/>	件/年（リストから選択してください）
設問（2） 「知財分野におけるビッグデータの活用」と聞いて、例えば何を連想しますか？		
回答	<input type="text"/>	
設問（3） 知財ビッグデータ分析結果を経営層に提供する際に想定される以下の知財業務（※）の中で、現在までに実施したことがある業務内容と、今後実施したい業務内容のうち、最も重要と考えているものをⅠ～Ⅲよりそれぞれ一つずつ選択してください。		
I. IPランドスケープ	<input type="checkbox"/> 知財情報と市場情報を統合した自社分析、競合分析、市場分析 <input type="checkbox"/> 企業、技術ごとの知財マップ及び市場ポジションの把握 <input type="checkbox"/> 個別技術・特許の動向把握（例：業界に大きく影響を与える先端的な技術の動向把握と動向に基づいた自社の研究開発戦略に対する提言等） <input type="checkbox"/> 自社及び競合の状況、技術・知財のライフサイクルを勘案した特許、意匠、商標、ノウハウ管理を含めた特許戦略だけに留まらない知財ミックス/パッケージの提案 <input type="checkbox"/> 知財デューデリジェンス <input type="checkbox"/> 潜在顧客の探索を実施し、自社の将来的な市場ポジションを提示する。	
II. 知財ポートフォリオマネジメント	<input type="checkbox"/> 自社保有技術に関する出願・放棄・秘匿等の戦略策定を通じた知財ポートフォリオの構築 <input type="checkbox"/> 技術動向や競合の特許出願状況、市場におけるルール形成等の動向を勘案した、時機を得た全社的知財ポートフォリオの評価・見直し <input type="checkbox"/> 知財ポートフォリオや知財戦略/パッケージにおけるコスト・リターン分析の分析・評価 <input type="checkbox"/> ポートフォリオ分析に基づいたR&Dテーマ及び社外からの調達が必要となる技術の評価・提案 <input type="checkbox"/> 過去の知財戦略に関するエビデンスに基づく成果評価・検証	
III. オープン&クローズ戦略	<input type="checkbox"/> 外部企業・技術の評価 <input type="checkbox"/> 知財の観点からのアライアンス候補企業・M&A候補企業の探索・提案	

※アンケートでは、知財関連データをビッグデータと置き換え

## アンケート内容概略

<知財関連データについて>

- A 経営層に提供した実績はあるか
- B どのような分析結果が重要と考えているか
- C 活用する上で障害となる要因は何か
- D 分析する人材のスキル向上取り組みはあるか
- E 分析に従事している人員はいるか



## 3.活動報告 その4 (アンケート結果整理)

### アンケート結果分析結果

- A 全体の約**85%**は、**知財関連データを活用している/活用したいニーズはあり**。  
全体の約**30%**は、**活用事例あり**。  
事例は下記Bに加え、保有技術の新規用途探索や特許運用方法の他社との比較など。
- B I P ランドスケープ      ①自社他社分析(市場データ含む) ②知財MAP、ポジショニング把握  
ポートフォリオマネジメント      ①ポートフォリオ構築 ②ポートフォリオ評価、見直し  
オープン&クローズ戦略      ①アライアンス、M&A候補探索 ②O&C戦略策定、立案
- C 知財関連データ活用に**障害となる要因**として最も多かったのは、**人材・スキル**。  
次いでコスト、データの順。
- D 知財関連データを分析・解析する人材のスキル向上のための取り組みについて、  
取り組んでいる企業は、全体の**30%弱**。
- E 知財情報の分析・解析に**従事している人員**は全体の**20%以下**の企業がほとんど。  
**多くが兼任**であり、また**増員予定があると答えた企業は少ない**。

人材・スキル不足を賄う**分析ツールに対する期待度は高い**



# 3.活動報告 その4 (アンケート結果整理)

情報ソース～分析～戦略立案(知財標準スキルVer.2.0より)

## 非特許情報

- 政策・法律
- 学術論文
- 規格・標準
- ニュース
- アンケート
- 口コミ

## 市場情報

- 企業情報
- 財務情報
- 販売情報

## 知財情報

- 出願情報
- 審査・審判情報
- 訴訟情報

## IPランドスケープ業務

(赤字はアンケートでニーズが多かった項目)

知財マップの把握

市場ポジションの把握

個別技術の動向把握

潜在顧客の探索

知財資産価値の把握

顧客ニーズの把握

課題の把握

自社分析  
競合分析  
市場分析

研究開発への提言

特許戦略/知財ミックスの提案

知財デューデリジェンス

将来市場ポジションの提示

## ポートフォリオ管理業務

出願戦略策定

PPFの評価・見直し

ポートフォリオ(PPF)構築

PPF分析

PPF投資対効果評価

R&Dテーマ評価、技術の社外調達提案

## オープン・クローズ(O/C)戦略業務

提携/M&A先の提案

O/C戦略立案

## 戦略立案

事業戦略

技術開発戦略

協業、買収戦略

知財戦略

財務戦略





## 3.活動報告 その5（具体例作成）

アンケート結果を受けて仮想事例を小委員会内で具体化

### 「経営に資する情報提供」について

- ①-1 ■ **自社特許と他社特許**の相対評価
- ①-2 ■ 他社に対しクロスライセンス等の**活用が可能な特許群**の抽出
- ①-3 ■ ある時点での**特許価値**の算定

### 「ホワイトスペース探索」について

- ②-1 ■ 参入障壁となる競合と**協力したい競合を想定**し、別々のシチュエーションで事例作成
- ②-2 ■ 「経営に資する情報提供」で、ベンダがクロスライセンス等の例を選択する場合、可能であればホワイトスペース探索でも同じ会社を選択してもらう

仮想事例をベンダに作成依頼するにあたり  
どういった狙いの分析か、上記を伝えることで明確化を図った。



# ベンダー事例 Clarivate analytics社

製品 : Derwent Innovation / Derwent Data Analyzer / ThemeScape

## 特徴

- 特許情報や論文情報をリアルタイムで分析し結果をグラフィカルに表示（各解析軸の2元表による等高線マップなど）
- セマンティック検索機能（スマートサーチ）によるキーワードでの簡易な検索
- 各特許に独自の英語抄録（新規性、優位性、用途に整理）や技術分類が付与された、「DWPI」データを収録

## 活用目的・適用例

- アライアンス、M&A候補先選定

◇分析事例：アライアンス先企業の絞り込み

### 手順1



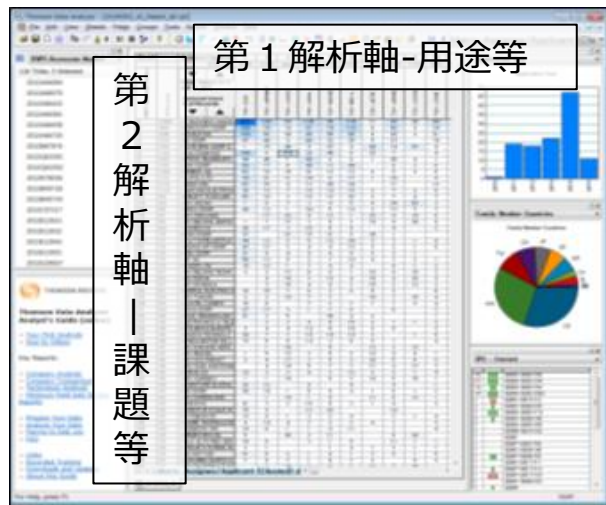
技術テーマにおける主要な出願人とその出願の経年変化を分析して候補企業を抽出し、マップにより特徴を可視化する。獲得したい技術分野と対象企業をMapより把握する



# ベンダー事例 Clarivate analytics社

製品 : Derwent Innovation / Derwent Data Analyzer / ThemeScape

手順2



先に着目した技術分野に対し、用途や課題を軸にしたMapや、出願時期、分布、ランキング等を組合せて分析し、特徴を把握する。

ランキングリストから興味のある出願人を特定し、各特許の概要を優位性、用途、技術分類等で整理された抄録(DWPI)で確認する。また、企業情報やビジネス情報を確認する。

手順3



手順2で特定した企業が保有する特許の詳細内容や引用/被引用を確認する。また、Web Of Scienceで特定企業の論文情報を検索できるので、結果から裏付けをとり、アライアンス候補企業を選定する。



# ベンダー事例 LexisNexis社

製品：Patent Strategies

## 特徴

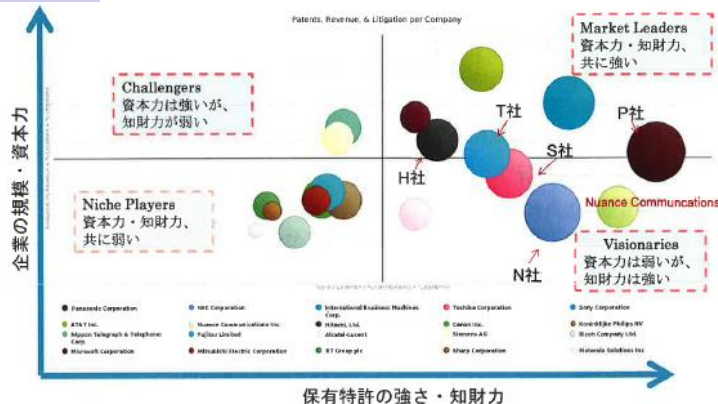
- ・特許情報以外に訴訟や技術標準など多くのデータソースを備えている
- ・PatentStrengthなる特許価値指標を備えている
- ・企業の規模、資本力として売上データを備えている

## 活用目的・適用例

- ・権利譲渡や訴訟状況の把握による競合分析

◇分析事例：技術動向分析、譲渡訴訟状況把握

### 手順1



- ・出願のWorldMapや、件数推移などで全体像を把握（図示なし）
- ・PatentStrengthで資本力と知財力のMapから該当技術におけるポジショニングを把握





# ベンダー事例 LexisNexis社

製品 : Patent Strategies

手順2



AY : ~ 2000年

それぞれのハニカムは特許群を表し、近接度は主題の類似度合を示します。同じ色の群が固まっていればいるほど、その企業ががっちり主題分野を固めていると言えます。

AY : 2010年~



キーワードから技術群をハニカムMapで表すことで可視化し、技術の類似度合と各企業の特許群構築状況を把握。抽出年を選択することで、変遷をも把握することができる。

他



侵害特許番号

特定企業の権利譲渡と訴訟に関する可視化がハニカムMapや円グラフ等で表現ができる。IN/OUT Assignmentや企業が侵害された特許番号を把握することができる。







# ベンダー事例 Questel社

製品名 : Orbit Intelligence / Orbit Intellixir / Orbit Asset

## 特徴

- ・指定した出願人や技術分野を層別し、パイチャートで表示する。
- ・層別に用いられる複数のパラメータを調節して層別の割合を変更可能
- ・売り上げデータや訴訟データを備えている。

## 活用目的・適用例

- ・ポートフォリオの棚卸し
- ・売上高と保有ファミリーの相関分析

### ◇分析事例：ポートフォリオの棚卸し

#### 手順1



Orbit Intelligenceを使用して、自社特許を出願人および技術分野を指定して抽出する  
標準の閾値で層別し、結果をパイチャートで確認する



# ベンダー事例 Questel社

製品名 : Orbit Intelligence / Orbit Intellixir / Orbit Asset

## 手順2

Group classification criteria

**Most likely to abandon**

Age:  $\geq 3$  AND Family size:  $\leq 1$  AND Fwd cites:  $\leq 0$  AND Cites/yr:  $\leq 0$  AND Self fwd:  $\leq 0$  AND Originality:  $\leq 0$

**Likely to abandon**

Age:  $\geq 3$  AND Family size:  $\leq 2$  AND Fwd cites:  $\leq 2$  AND Cites/yr:  $\leq 0.5$  AND Self fwd:  $\leq 1$

**Possible to abandon**

Age:  $\geq 3$  AND Family size:  $\leq 5$  AND Fwd cites:  $\leq 5$  AND Cites/yr:  $\leq 0.9$  AND Self fwd:  $\leq 2$

**Unlikely pruning candidates**

Age:  $\leq 3$  OR Family size:  $\geq 7$  OR Fwd cites:  $\geq 10$  OR Cites/yr:  $\geq 2.3$  OR Self fwd:  $\geq 1$

Bar chart showing the number of patents (パテントファミリー数) from 1995 to 2016, categorized by Computer technology (blue) and Audio-visual technology (red).

閾値は、経過年数、ファミリー数、被引例数、独創性を変更可

パイチャートを確認しながら層別の全体を確認する。  
各層の閾値を調整してパイチャートの表示を変化させながら大局的な判断を行う。  
必要に応じて年毎のファミリー数を考慮して判断する。

## 手順3

Cat	Title	Family Normalized Assignee name (value)	Publication nb.	Kind Code Reference	1st Publ. date	Age	Family size	Cites /yr	Fwd cites	Predat or	Gener ality	Original ity	Valid ated
Most likely to abandon	搬送装置及び○○装置	<自社名>	JPnnnnnnnnn JP9999999	A B2	2012-11-12	5	1	0	0	NONE	0	0.79	NO
Most likely to abandon	○○機構の制御方法及び○○装置	<自社名>	JPnnnnnnnnn JP9999999	A B2	2009-01-15	9	1	0	0	NONE	0	0	NO
Most likely to abandon	○○基板の製造方法	<自社名>	JPnnnnnnnnn JP9999999	A B2	2002-08-28	15	1	0	0	NONE	0	0	NO
Most likely to abandon	○○部品の製造方法	<自社名>	JPnnnnnnnnn JP9999999	A B2	2011-11-12	5	1	0	0	NONE	0	0.50	NO

経過年、ファミリー数、被引例数等の評価値を付加し出力したExcelのリスト

各案件のリストをExcel等に出し、放棄の可否検討を進める





# ベンダー事例 VALUENEX社

製品名：TechRadar/ DocRadar

## 特徴

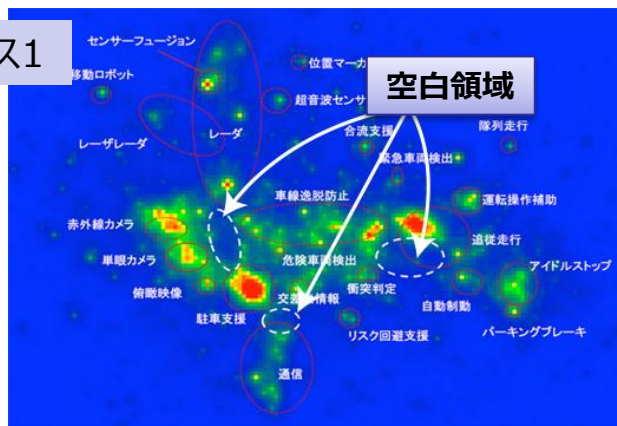
- ・情報(文章の特徴語と特徴ある複合語)の類似度を数値化してクラスタリング
- ・2次元配置技術により可視化。俯瞰解析が可能
- ・最大10万件の特許／非特許情報の可視化が可能

## 活用目的・適用例

- ・ホワイトスペース探索
- ・萌芽的技術領域の探索が可能

◇分析事例：ホワイトスペース検索

### ケース1



### 俯瞰図における空白領域の考え方

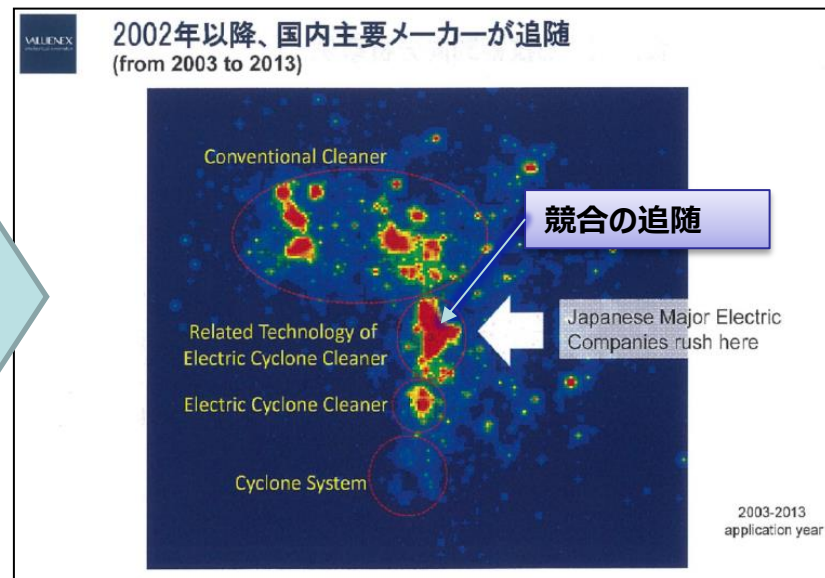
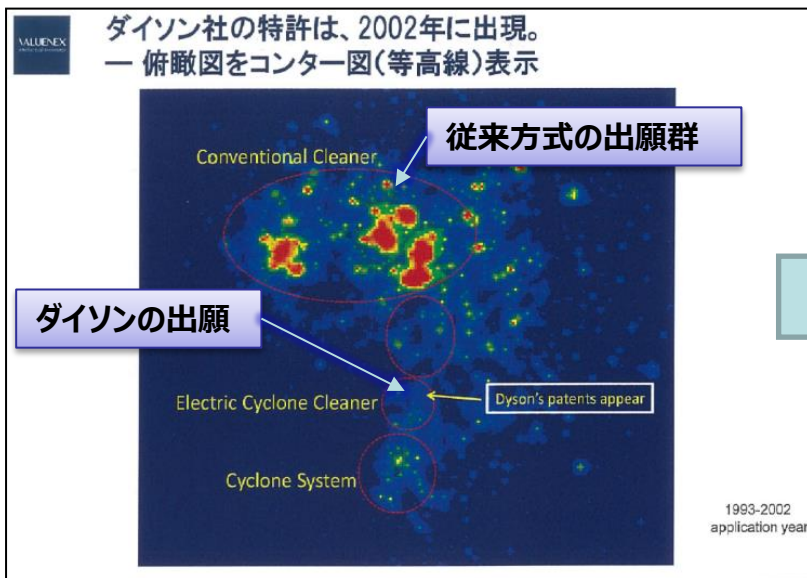
- ① **未踏の領域** (=ビジネスチャンス)  
誰も実現していない、特許出願されていない領域
- ② **秘匿技術の領域**  
技術として存在するが、特許出願されていない領域
- ③ **実現不可能な領域**  
理論上実現不可能であり、特許性のない領域



# ベンダー事例 VALUENEX社

製品名：TechRadar/ DocRadar

## ケース2



### 萌芽的技術領域探索

近年特許出願件数や論文数が急増している領域を抽出

⇒業界内で**新しい技術や製品の兆し**を表す。

⇒業界トレンドや**競合の新たな動き**をいち早くつかむ。



# 3.活動報告 その5 (アンケート結果と可視化)

情報ソース～分析～戦略立案(知財標準スキルVer.2.0より)

※分析に必要な機能

- 非特許情報**
  - 政策・法律
  - 学術論文
  - 規格・標準
  - ニュース
  - アンケート
  - 口コミ
- 市場情報**
  - 企業情報
  - 財務情報
  - 販売情報
- 知財情報**
  - 出願情報
  - 審査・審判情報
  - 訴訟情報



- 戦略立案**
- 事業戦略**
- 技術開発戦略**
- 協業、買収戦略**
- 知財戦略**
- 財務戦略**



# 3.活動報告 (ツールの対応(ニーズと必要な情報))

- ・赤色：ユーザニーズに対して必要な情報を特定
- ・記号：分析可能なツール

ユーザニーズ	金融・経理 (経済)	規格・標準化	特許	論文	SNS アンケート
自社分析、競合分析、市場分析	△	○□◇	○△□◇	△□	○△◇
企業、技術ごとの知財マップ及び市場ポジションの把握	△	○□◇	○△□◇	△□	○△◇
知財ポートフォリオの構築	△	○□◇	○△□◇	△□	○△◇
知財ポートフォリオの評価・見直し	△	○□◇	○△□◇	△□	○△◇
アライアンス候補企業・M&A候補企業の探索・提案	△	○□◇	○△□◇	△□	○△◇
オープン・クローズ戦略の立案方針の策定	△	○□◇	○△□◇	△□	○△◇

○ : PatentStrategies    △ : Clarivate  
 □ : Tech/DocRader    ◇ : Orbit.com





## 4.まとめ (知財関連データ活用の現状)

対象	概要	具体的内容
企業の取り組み (委員会内)	情シ委内アンケート	<ul style="list-style-type: none"><li>・委員会内では約3分の1の企業で実績あり</li><li>・知財関連データ活用は、ニーズは多いが人材・スキルの不足を実感している。</li></ul>
特許庁	<ul style="list-style-type: none"><li>・知財スキル標準の改定 (version 2.0)</li><li>・知財戦略ポータルサイト</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・戦略立案業務が追加定義され、企業の知財活動を後押しする動きが見られた。</li><li>・J-PlatPatによる戦略支援の機能追加</li></ul>
システムベンダ	<ul style="list-style-type: none"><li>・可視化機能の充実</li><li>・利用企業の増大</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・継続して多機能化・可視化が進んでいる (ただし、必要に応じ組合せ必須)</li><li>・見せ方が増え、直感的に把握し易くなった</li><li>・分析事例の蓄積が出来てきている</li><li>・コンサル活用も選択肢の一つ (スキル不足の解消手段)</li></ul>

# ご清聴有難うございました

～世界から期待され、世界をリードする JIPA ～



一般社団法人日本知的財産協会







## 3.活動報告 その4 (アンケート結果整理)

### アンケート結果分析結果

A 活用ニーズとして多かった項目：

- I P ランドスケープ ①自社他社分析(市場データ含む) ②知財MAP、ポジショニング把握
- ポートフォリオマネジメント ①ポートフォリオ構築 ②ポートフォリオ評価、見直し
- オープン&クローズ戦略 ①アライアンス、M&A候補探索 ②O&C戦略策定、立案

B 全体の約**85%** **知財関連データを活用している/活用したいニーズはあり。**

C 全体の約**30%** **活用事例あり。**

事例は上記 A に加え、保有技術の新規用途探索や特許運用方法の他社との比較など。

D 知財関連データ活用に**障害となる要因**として最も多かったのは、**人材・スキル**。  
次いでコスト、データの順。

E 知財関連データを分析・解析する人材のスキル向上のための取り組みについて、  
取り組んでいる企業は、全体の**30%弱**。

F 知財情報の分析・解析に**従事している人員**は全体の**20%以下**の企業がほとんど。  
**多くが兼任**であり、また**増員予定があると答えた企業は少ない**。

人材・スキル不足を賄う**分析ツールに対する期待度は高い**



# 1. 過去活動の振り返り ～その2～

分析業務における想定課題を抽出の上  
**各ツールが課題解決にどの程度利用できるか**の概要をまとめた。

## I. 何ができるか

ホワイトスペース検索をはじめ、複数の活用目的に使用可能なツールが出現

## II. 使いこなせるか

単一言語分析・検索、初心者から熟練者まで幅広い利用が可能

## III. 扱える情報の範囲

特許情報、収録国の大幅な増大、取り扱える非特許情報の領域拡大

## IV. 分析の種類

人手作業を代行する機能、分析の幅を広げる機能拡充、分析精度向上のための情報加工

## V. 過程や結果の共有

分析結果を複数ID間で共有できるサービスが標準化

## VI. セキュリティ、他

クラウド化による初期導入コスト削減、BIツールによるデータ可視化と分析が可能



## 3.活動報告 その3 (委員会内アンケート)

### IPランドスケープ業務

IPランドスケープ業務	重要と回答
知財情報と市場情報を統合した <b>自社分析、競合分析、市場分析</b>	15
企業、技術ごとの知財マップ及び <b>市場ポジションの把握</b>	9
<b>個別技術・特許の動向把握</b> (例: 業界に大きく影響を与えうる先端的な技術の動向把握と動向に基づいた自社の研究開発戦略に対する提言等)	6
自社及び競合の状況、技術・知財のライフサイクルを勘案した特許、意匠、商標、ノウハウ管理を含めた特許戦略だけに留まらない知財ミックスパッケージの提案	2
知財デューデリジェンス	2
潜在顧客の探索を実施し、自社の将来的な市場ポジションを提示する。	1



# 3.活動報告 その3 (委員会内アンケート)

## 知財ポートフォリオ管理業務

知財ポートフォリオマネジメント	重要と回答
自社保有技術に関する出願・放棄・秘匿等の戦略策定を通じた知財ポートフォリオの構築	13
技術動向や競合の特許出願状況、市場におけるルール形成等の動向を勘案した、時機を得た全社的知財ポートフォリオの評価・見直し	10
知財ポートフォリオや知財戦略パッケージにおけるコスト・リターンの分析・評価	3
ポートフォリオ分析に基づいたR&Dテーマ及び社外からの調達が必要となる技術の評価・提案	3
過去の知財戦略に関するエビデンスに基づく成果評価・検証	2



### 3.活動報告 その3 (委員会内アンケート)

#### オープン&クローズ戦略業務

オープン&クローズ戦略	重要と回
外部企業・技術の評価	4
知財の観点からのアライアンス候補企業・M&A候補企業の探索・提案	12
エコシステムデザインの構想・構築	4
新規・既存技術のオープン・クローズ戦略の立案・クローズ領域の選定・確保、模倣品・侵害品の排除方針の策定	9
国内外政府・規制当局等への対応を通じた、模倣品・侵害品の排除を含む、最適な経営環境の構想・構築	1



## 4.まとめ (現行ツールの課題と提言)

### 現行ツールの課題

1. ツールの習熟に時間がかかる。  
母集団のノイズ除去などのノウハウがあり、分析結果が得られるまで試行錯誤が必要。
2. 短時間で分析結果が得られない。処理時間が長い。
3. 単体のツールで全ての分析が行えない。  
分析によって複数ツールを組み合わせる必要がある。

ベンダーに対し、これら課題の改善を提言していくことを今後検討する。



### 3.活動報告 (小委員会考察)

#### 主な確認内容

#### 委員会内の主な意見

出願の投資対効果や特許価値評価について

ニーズは非常に高いが、信頼度の高い評価や金額換算はまだ難しそう。

自他社出願の相対比較

見える化は進歩しているが、分析・解釈は分析者の熟練を要する。

ホワイトスペース探索

空白地帯が何を意味するか、マトリクス化するなど工夫が必要。

提携先またはM&A対象企業の探索

特許情報は一つの観点なので非特許情報と絡めた分析が必要だが、うまく生かした分析はあまり見られない。

分析作業にかける人的コスト

分析の効率化は期待できるが最終判断を人間が行うことに変わりない。

分析ツールの選択

様々な分析を全てカバーするツールはない。目的に合わせたツールの選択が必要。

分析手法の多様化に伴う情報ソースの多様化(知財/非知財情報)

分析に必要な情報を有するツール又は情報を入手する仕組みが必要。